

TV華やか! お手入れ簡単の  
クレマチス

放送

再放送

再放送

5/6  
(日)5/8  
(火)5/10  
(木)バラとクレマチス  
大特集

Roses and Clematis

その  
五

# クレマチス

新枝咲きが  
おすすめ!

つる性植物の女王と呼ばれ、バラと並ぶ人気を誇るクレマチス。花色や花形が豊富で、バリエーションの多さも魅力の一つです。その分、系統や品種ごとの管理が難しいイメージも。今回は、初心者でも失敗知らずの楽々タイプ、「新枝咲き」に絞って紹介します。5月に鉢植えの開花株を入手すればすぐに花が楽しめて、花後にバッサリ剪定すると、夏の二番花、秋の三番花も楽しめます。



初めての  
クレマチスには  
新枝咲きを  
おすすめして  
います



園芸研究家

阿部さくら

あべ・さくら／静岡県駿河平にあるクレマチスガーデンのヘッドガーデナーを務める。ガーデンの栽培顧問である園芸研究家・金子明人氏に師事。四季折々の花が楽しめるクレマチスを中心にした植栽計画や管理を手がける。



知ってる!?

「新枝咲き」って  
なに?

今年新しく伸びた枝(新枝)に花芽がつく咲き方で、主な系統に、ヴィチセラ系、ヴィオルナ系、インテグリフオリア系、テキセンシス系などがあります。四季咲き性が強く、花後に剪定をすれば、剪定後に新しく伸びた枝に再び花芽がついて、年3回ほど開花が楽しめます。

今回は紹介しませんが、クレマチスには、前年に伸びた古い枝(旧枝)に花芽がつく「旧枝咲き」、新しい枝と古い枝の両方に花芽がつく「新旧両枝咲き」もあり、剪定のコツが異なります。

## ヴィオルナ系

‘押切’(おしきり)



NP-H.Imai

花径1~5cmの  
壺形やベル形が  
次々に咲く



一番花の開花は少し遅い。冬は地上部が枯れる。「押切」は、花弁の外側と内側の色の対比が美しい。「天使の首飾り」は、花弁先端の白い縁取りがチャームポイント。コンパクトに育つ。



‘天使の首飾り’

## インテグリフオリア系

‘流星’(りゅうせい)



NP-H.Imai

木立ち性、  
半つる性の  
コンパクトな品種も



草丈15cmからつるが3m伸びるものまで幅広い。「流星」は花弁先端の斑状の濃紫色が個性的。半つる性。「火岳(かがく)」は多花性品種。剪定でさらに開花する。樹木に絡ませて咲かせてもよい。



‘火岳’

## ヴィチセラ系

‘ジュエリー・ローズ’

## テキセンシス系

‘ハッピー・ダイアナ’



NP-H.Imai

チューリップ形や  
壺形の鮮やかな  
花色がそろう



原種テキセンシスとその交配種。暑さに強く夏も楽しめる。「ハッピー・ダイアナ」は上向きの大きな花がチューリップのよう。「琴子(ことこ)」は花弁の外と内のコントラストがエレガント。



‘琴子’

つるがよく伸び  
花数が多く豪華。  
庭で楽しみたい



小・中輪の花が下、横、上向きに咲く。芳香品種も。「ジュエリー・ローズ」は花弁に細かな斑があり、株全体を覆うように咲く。鉢にも向く。「プリンシバル」は万重咲きで花もちがよく、日陰でも。



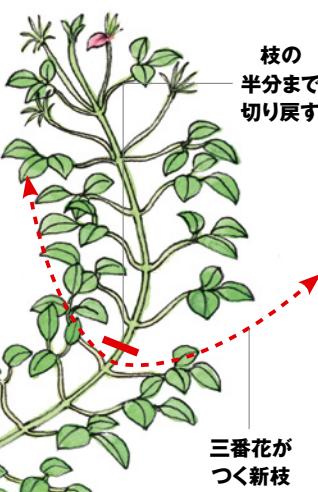
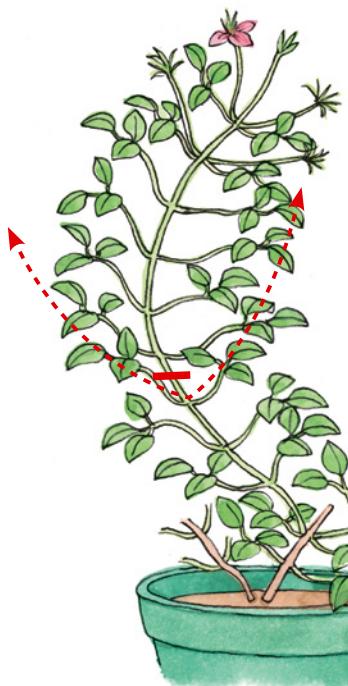
‘プリンシバル’

# 花後剪定で三番花まで咲かせよう

例：ヴィチセラ系

8月中旬～下旬

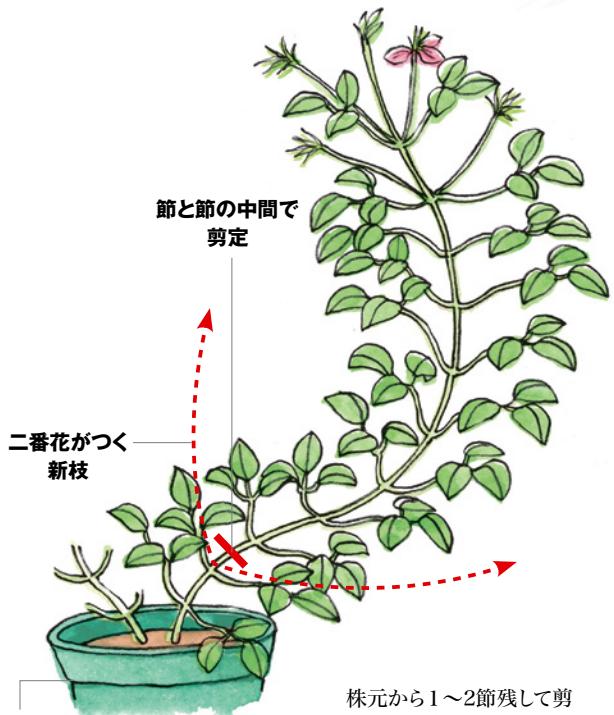
## 二番花の花後剪定（中剪定）

半分まで  
切り戻す

二番花がついた枝を半分まで切り戻す。剪定が遅れたり、強く切りすぎたりすると、気温の低下の影響を受けて、三番花がつかないこともある。

6月中旬～7月上旬

## 一番花の花後剪定（強剪定）

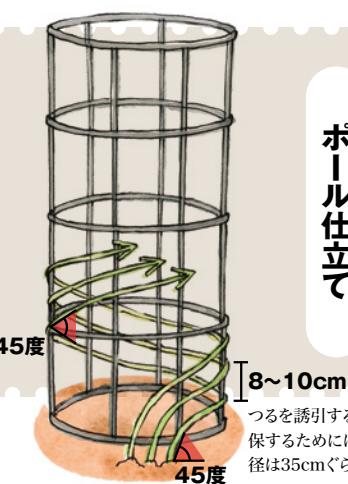
花が終わったら  
バッサリ

株元から1～2節残して剪定する。残した節から、二番花がつく新枝が伸びる。



目立たない  
色のビニールタイで  
支柱に留める。

新枝を同方向に斜め45度の角度で巻き上げる。枝と枝の間は8～10cmあける。風通しをよくしたり、作業がしやすいように、内側には枝をくぐらせない。鉢植えは、竹支柱などをピラミッド形に組んで同様に誘引する。



## ポール仕立て

つるを誘引するスペースを確保するためには、ポールの直徑は35cmぐらいは必要。

剪定後に新枝が伸びてたら、枝が柔らかいうちに、ポールやフェンスなどに誘引しましょう。美しい花姿を楽しむには、誘引が決め手です。最初はうまくできなくとも、新枝咲きなら剪定のたびにリセットできます。

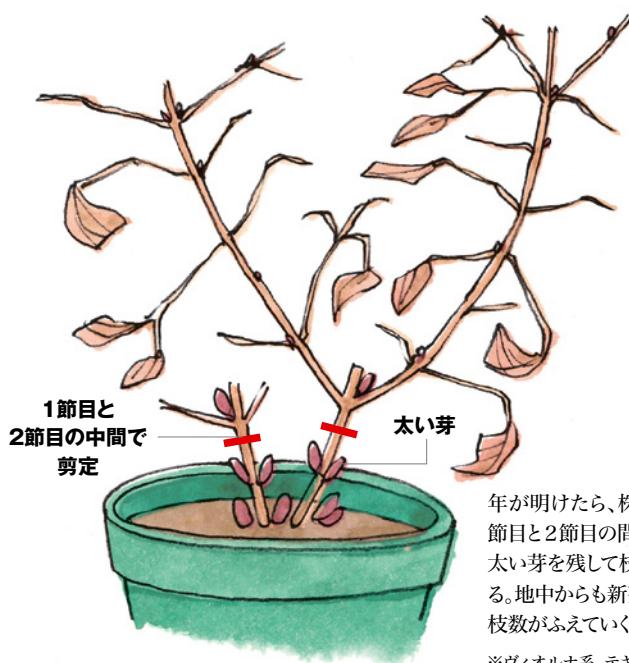
## 誘引のコツ

新枝咲きは新しく伸びる枝に花がつくので、  
バッサリ剪定しても失敗しません！  
剪定をすることで、繰り返し花が楽しめます。

1月上旬～2月上旬

### 休眠期の剪定(強剪定)

短く  
切り詰める



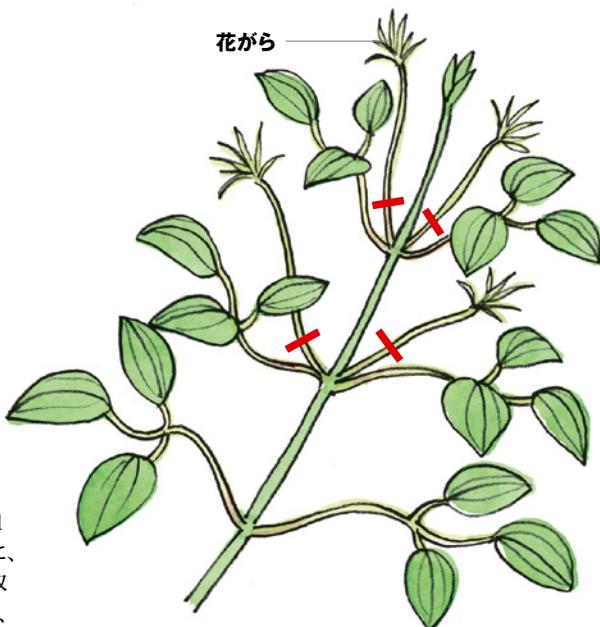
年が明けたら、株元から1節目と2節目の間に目安に、太い芽を残して枝を切り取る。地中からも新芽が出て、枝数がふえていく。

※ヴィオラ系、テキセンシス系、インテグリフォリア系の多くは、冬に地上部が完全に枯れるので、地際で切り取る。

10月下旬～11月上旬

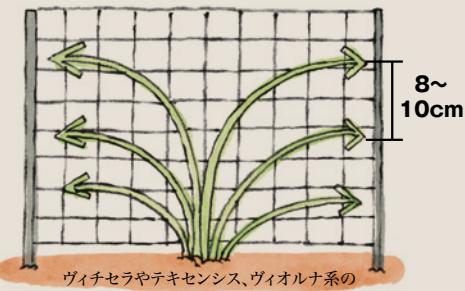
### 三番花の花がら摘み

花がらだけ  
切り取る



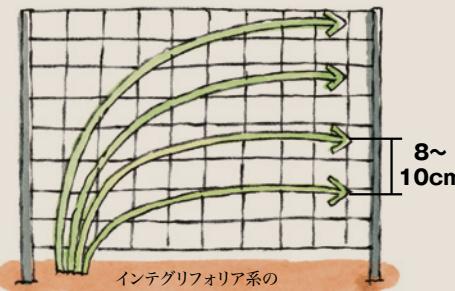
三番花が終わったら、花がらだけ切り取る。枝や葉は冬の剪定まで残す。

地面とできるだけ水平に、下のほうにも誘引すると、フェンス全体に咲かせることができます。



ヴィチセラやテキセンシス、ヴィオラン系のフェンスは140×160cmが目安。

枝と枝の間を8～10cmあけ、1方向に誘引してビニールタイで留める。フェンスの裏面には枝をくぐらせない。



インテグリフォリア系のフェンスは80×100cmが目安。

### フェンス仕立て

## クレマチスに合う下草

クレマチスの花色と相性のよい、草丈の低い草花やリーフプランツがおすすめです。



コリウス

葉色が豊富で  
クレマチスの株元を  
色彩やかに飾る。



アケボノフウロ

株元をこんもり飾る。  
白、青、藤色の花に  
よく合う。



シロタエギク

淡いピンク、藤色、  
ブルー系のクレマチスの  
花を引き立てる。



ホルデウム・ユバツム

草丈50cm程度だが、  
線が細いので  
日陰をつくらない。



フロックス

草丈20cm程度の  
矮性品種がよい。  
花色が豊富で  
斑入り葉もあり強健。



ペロニカ  
'オックスフォード・ブルー'

矮性や這い性品種を。  
茂りすぎたら  
刈り込みや株分けを。

## 下草と合わせて華やかに

株元に草花やリーフプランツなどの下草類を植えると  
クレマチスの花を引き立てたり、  
花のない剪定後や休眠期も寂しくなりません。



テキセンシス系の‘プリンセス・ダイアナ’とジギタリス・タプシーのピンクのグラデーション。クレマチスの新芽が陰にならないよう、下草類は草丈の低いもの、葉や花茎の細いもの、クレマチスより成長の遅いものを合わせる。



### 下草にもなる 矮性のクレマチス

草丈15~25cmのつるにならない木立ち性の矮性品種は、下草的な楽しみ方もできる。写真はインテグリフォリア系の‘ブルー・ベル’。



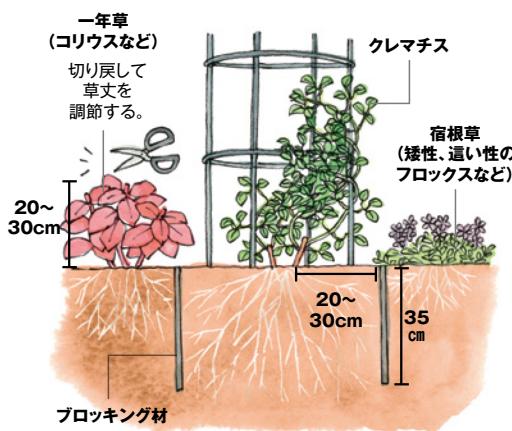
ここがポイント！

### ブロッキングで クレマチスの根を守る

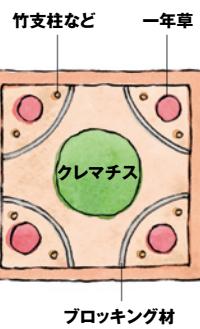
近くに下草類を植えるときは、あぜ板(プラスチックなどの下敷きで代用可)などを土に埋め、仕切りをして(ブロッキング)クレマチスの根を守ります。植え替えや追肥などの管理もしやすくなります。



**庭植え**／下草類は20~30cm離して植える。高さ35cm程度の市販のあぜ板などのブロッキング材を埋め、クレマチスと下草類の根を仕切る。



### 鉢植え



**鉢植え**／鉢植えでは、あぜ板や厚めの下敷きなどで仕切り、一年草の下草類を植える。

# 「新枝咲きのクレマチス」

Clematis

2018年5月号

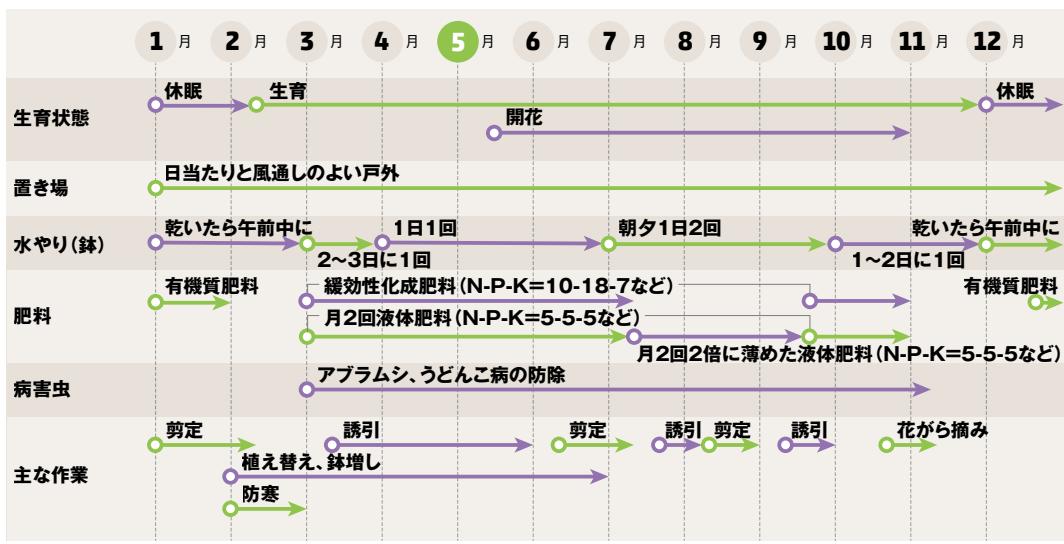
## 管理のコツ



- 置き場 1年を通して、戸外の日当たりと風通しのよい場所で管理する。
- 水やり(鉢植え) 1~3日に1回、土の表面が乾いたらたっぷり。水切れさせない。高温期は早朝と夕方以降の1日2回。冬は午前中に気温が高くなつたら。
- 肥料 生育期に定期的に緩効性化成肥料(N-P-K=10-18-7など)と、月2回規定の倍率に薄めた液体肥料(N-P-K=5-5-5など)を施す。夏は2倍に薄めた液体肥料のみ。12月下旬~1月下旬に、庭植えは株元から15~20cm離して2か所に穴を掘り、鉢は縁に1か所穴をあけ、有機質肥料を入れる。
- 植え替え、鉢増し 春に購入した開花株は、一番花の花後剪定後の6月までに、2年目以降は2~6月に、庭や一回り大きなロングポットに植え替える。庭への植えつけは3年生苗から。幼苗は鉢で1年以上育てる。
- 剪定、誘引 60~61ページ参照。誘引は枝が柔らかいうちにこまめに行う。放置すると絡まつたり、折れやすくなつたりする。枝を傷つけないように、古くなったビニールタイは休眠中に取り除くか交換する。
- 防寒 新芽を霜から守るために、新芽が埋まる程度に5~10cm土をかけて防寒する。
- 病害虫 アブラムシ、うどんこ病に注意。3~11月に殺虫剤、殺菌剤を散布して予防する。

## カレンダー

5月に新枝咲きの開花株を購入した場合



関東地方以西基準

講師  
阿部さくら

## 北国の主な管理・作業



### ① 北海道地方

寒さに強いインテグリフォリア系、モンタナ系などが当地に向いている。地植えで冬越しできる。6月ごろから夏にかけて開花。旺盛な生育期には水やりをたっぷり。

(北海道大学・星野洋一郎)

### ② 東北地方(太平洋側)

鉢で栽培する場合は日当たりのよい場所に。四季咲き性のものは開花後に下から2節目のところで剪定する。肥料は緩効性肥料などのほか月2~3回の液体肥料も施す。(園芸研究家・阿部文雄)

### ③ 東北地方(日本海側)

夏場の西日は株を消耗させるので避ける。梅雨時期にはうどんこ病が発生しやすいので、風をよく通して予防する。冬は寒風が直接当たらないように注意する。

(園芸研究家・佐々木秋彦)